

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 きらら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～ 令和7年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年2月 19日		～ 令和7年2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、公認心理師、介護福祉士、児童指導員等、資格を持った職員が多く、専門性の高い支援を提供することができる。	保育士、公認心理師、介護福祉士、児童指導員等、有資格者が多数在中しており、各分野の専門性を活かした個別・集団療育を実施することができる。また、それぞれ各分野の研修に参加し、事業所内研修にて情報伝達を図ることで、全職員が様々な分野の知識を習得することができる。	資格保持者は多数在中しているが、男性職員が少ない。思春期のメンタルケア、同性介助等を考慮し、男性職員の配置も検討していく。
2	日頃から、ご利用者の状況を保護者に伝え、定期的に面談を行う事で、保護者とのコミュニケーションを図ることができている。 また、保護者からの相談や要望に対しては、関係機関と連携を重り、ケース会議を開催したり、支援内容等の情報共有を図っている。	日々のご利用者の様子を送迎時やLINEを活用して保護者にお伝えしている。また、活動や行事の様子を写真や動画でリアルタイムで知らせている。 関係機関とは、ご利用者の支援について、必要に応じて連絡を取り合い、情報共有している。	ご利用者や保護者の意向を受け止め、兄妹を含めた家族をトータルに支援していくことができるように相談や要望に対して話し合う機会を定期的に設ける。
3	事業所の設備は、バリアフリー化されている。また、発達段階や特性等、個々のニーズに応じた配慮ができるよう様々な施設環境が整っている。	ご利用者の体調や発達段階、発達特性に応じて、個別に過ごせる個室、集団での活動時に使用する活動室、買い物体験等で利用可能な同法人内にあるカフェ、多様な遊びや体験活動が可能な運動場等、安全に考慮して、様々な施設設備が充実している。	安全計画に基づき、施設内の安全点検を定期的に行う。また、ご利用者の発達状況や発達特性に応じて、ご利用者の安全・安心が確保できる場となるよう設備や環境を整えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動支援、保護者等の開催等により、保護者同士の交流の機会があまりない。 家族支援プログラムを活用したペアレントトレーニング等が行っていない。	家庭の都合や保護者の方の就労の都合で、参加できる日程が限られてくる。 ペアレントトレーニング等を実施できる職員が少ない。	定期的に保護者の方に事業内容や活動内容を伝える機会を設ける。年間行事に保護者座談会を組み込み、保護者同士が交流できる場を提供する。 保護者の参加しやすい日時や時間帯を把握するとともに、保護者の意向を聞きながら参加してみたい内容の研修を計画する。
2	主治医との連絡体制が整っていない。	現在、保護者を通じて、医療に関する情報の共有は行っている。しかし、今後、主治医や協力医療機関との情報共有が必要になる可能性もある。	保護者の同意を得て、今後、必要であれば主治医や協力医療機関と連携し、情報共有を行うことができる体制を整えていく。
3	地域の方を招いて行う出前講座や体験学習、また地域の他の子どもと活動する機会はあるが、保護者への情報発信が十分にできていない。	現在、同法人内で開催している地域の方を招いたフェアを実施している。また、長期休暇を利用して、地域の方に来ていただく出前講座や地域施設を訪問する体験学習を年間行事に組み込んでいる。しかし、保護者の方への情報発信が十分にできていない。	LINE等で保護者に活動の様子をお伝えするとともに、HPで事業所全体の行事や活動の様子等を随時発信していることを伝える。また、個人情報の取扱いに注意しながら、SNSを利用した新たな情報発信の仕方を検討していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 障がい児通所支援事業所 きらら
(児童発達支援)

公表日 令和7年 3月 25日

利用児童数

2名

回収数

2名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	2					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1			・まだ日が浅いので親同士の交流機会があれば参加したい。	・ご家族支援については「育児サポート」ができるような日程や行事を検討していきます。 ・「手をつなぐ育成会」の相談会についても情報提供しています。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2				
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2				
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2				・とても楽しみにしている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障がい児通所支援事業所 きらら (児童発達支援)		公表日		令和7年 3月 25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・学習するスペースと活動するスペースを分けている。個別対応も可能である。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・施設内は全てバリアフリーに配慮している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日清掃を行い衛生面に気を配っている。 活動によって空間を使い分けている。 ・毎日清掃を行い、定期的に道具や設備の点検をし環境に配慮している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・子どもの状況を見ながら必要に応じて個別の部屋を使用している。 ・子どもの体調や気持ちの変化に配慮し、個別に落ち着くことができる部屋や場所を確保している。		
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・毎朝の朝礼で気づいたことや前日の振り返りを行うようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・保護者の意向の把握や意見に対して話し合い、改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・定期的な会議や必要があればその都度、職員間で話し合い、情報共有している。 ・朝礼や会議等それぞれの職員が意見を出し合い、より良い支援を行うことができるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		・第三者により外部評価は現在行われていないが、今後検討していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・HPにて公表、保護者の方にも情報提供している。 ・HPで公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・アセスメントシートや検査結果をもとに計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・職員間で情報共有しながら話し合い、検討している。 ・必ず支援に関わる職員を含めて支援計画を検討し、共通理解を図っている。 ・全職員でその子どもの良さや課題について共通理解し、計画作成の際、検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・5領域に沿った目標とその目標を達成するための具体的な支援内容を設定している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・アセスメントシートや検査結果をもとに計画を作成している。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・5領域に沿った目標とその目標を達成するための具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・5領域に沿った活動プログラムを職員で話し合いながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・5領域に沿って、毎日日替わりでプログラムを組んでいる。 ・職員がそれぞれアイデアを出し合って内容を工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・朝礼でその日の活動や役割を打ちあわせている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			・気付いた点や急を要する内容は支援終了後に話しているが、打ち合わせについては、次の日の朝礼時に行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・支援内容や申し送り等を記録し検証、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		・必要になれば主治医や協力医療機関とご家族を通じて連携体制を整えたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・必要に応じて連絡をとったり送迎時の申し送りの際に、情報共有したり相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・保護者の要望に応じてケース会議を開催し、情報共有を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		・専門機関と連携し、支援について助言やアドバイスをいただいたり、定期的に子ども部会等での研修を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		・月に1回、同法人で開催しているイベントの中で、地域の子どもたちとの交流の場を設けている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・送迎の際にこどもの状況を伝えたりLINEを活用して活動の様子を写真に撮り共有している。		

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		・現在、ペアレントトレーニングは事業所内で行っていないが、研修で学んだ職員が話をする場や相談会を設けている。 ・月に1回「手をつなぐ育成会」への相談会等への情報を促している。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			・契約時に説明を行い、保護者からの問い合わせや必要があればその都度説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			・必ずご家族の意向を聞く機会を設けている。また、必要があれば相談を受け、支援計画に反映している。 ・聞き取りの際にご家族の意向を聞く機会を設けている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			・必ず支援内容の説明を行い、同意を得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6			・今年度は親子ふれあい会、親子遠足を行い、保護者同士の話をする機会を設定した。 ・月に1回「手をつなぐ育成会」の相談会への情報を促しています。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			・HPやLINEなどを活用し、活動内容や行事等の情報を発信している。 ・毎月活動内容のプログラム表を発信したり定期的にホームページにて活動や行事の報告を行っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			・個別に合った方法で分かりやすく伝えることを心掛けている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			・毎月同法人でイベントを開催し、参加している。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			・年間安全計画を策定し、定期的にマニュアルを見直している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			・職員間での訓練や、児童達も長期休暇の際に定期的に訓練に参加してもらっている。 ・法人全体でBCPマニュアルを策定し、訓練、研修も定期的実施している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			・聞き取りなどで保護者から情報提供があった場合、職員間で共有している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3		・食物アレルギーの有無はご家族から診断書を頂き対応をしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			・定期的に研修や訓練を行っている。 ・1年に1回、安全計画を作成し、必要な研修や訓練等を計画的に行うことができるようにしている。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			・契約の際に周知しているが、モニタリング等、定期的にご家族に周知していく。

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・年度末に年間の事例集を作成し職員間で課題等を話し合い次年度の改善につなげている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		・現在、支援の中で、やむをえず身体拘束を行うことはしていないが、毎月のリスクマネジメント委員会の中で話しあいを実施し、職員間で意識づけを心がけている。	